

昭和館報

平成27年度

口 絵		Ⅲ 関連情報提供事業	
ごあいさつ	1	1 運用管理	16
フロア構成	2	(1) システム運用管理	16
年間主要行事	3	(2) データベース運用管理	17
平成27年度事業概要		(3) ホームページ運用管理	17
Ⅰ 展示事業		2 オーラルヒストリーの制作	18
1 常設展示	4	3 海外資料調査の実施	19
(1) 常設展示の概要	4	Ⅳ 啓発広報等事業	
(2) 展示替え工事	4	1 広報活動	20
(3) 展示資料の入れ替え	4	(1) 広報資料の作成及び発送	20
2 巡回特別企画展の開催	5	(2) 広報と掲示及び掲載	20
(1) 第27回巡回特別企画展	5	(3) 子ども霞ヶ関見学デー	20
もっと知りたい! 戦中・戦後の暮らし (長野展)		(4) 第14回昭和館見学作文コンクール	21
(2) 第28回巡回特別企画展	5	(5) 第8回昭和館高校生ポスターコンクール	21
もっと知りたい! 戦中・戦後の暮らし (和歌山展)		2 『昭和の暮らし研究』の刊行	22
(3) 戦後70年3館合同展示会・講演会	6	3 展示資料の貸出	23
「伝えたい あの日、あの時の記憶」		4 昭和館運営専門委員会の開催	24
3 貸出キット	7	5 昭和館運営有識者会議の開催	24
4 紙芝居定期上演会	8	6 インターシップ	25
5 教員のための博物館体験	8	7 関係施設等連携会議の開催等	25
6 実物資料の収集と保存	9	(1) 第8、第9回会議を開催	25
(1) 実物資料の収集	9	(2) 戦後70年3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施	25
(2) 実物資料の保存と補修	9	(3) 移動教室「シベリア抑留を描くー二人の画家展 VOL.3」を開催	26
(3) 実物資料の貸出実績	9	(4) 戦後70年3館合同展示会・講演会「伝えたい あの日、あの時の記憶」	26
Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業	10	(5) 巡回特別企画展の相互協力	26
1 図書文献関係	10	8 皇室の来館	26
(1) 運用管理	10	Ⅴ 特別企画展等の開催及び概要	
① 閲覧室及び書庫の管理	10	1 「昭和20年という年～空襲、終戦、そして復興へ～」	27
② レファレンス・サービス (参考調査業務)	10	2 「双六でたどる戦中・戦後」	28
③ 利用ガイドの発行	10	3 「昭和の日」記念イベントの開催	30
④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配付、読書案内	10	4 「戦後70年写真展一知っていますか、70年前のこと」	30
⑤ ホームページ	11	5 「桜のおとずれ ～花見を楽しむ～」	31
⑥ 蔵書点検	12	6 資料公開コーナー	32
⑦ 利用状況	12	参考	
(2) データ管理	13	1 入場者状況の推移 (平成11年度～27年度)	33
① 収蔵図書のデータ管理	13	2 平成27年度利用者実績	34
② 目次データ入力	13	3 常設展示室入場者数	34
(3) 保存管理	13	4 来館団体御芳名	35
(4) 業務研修	13	5 第14回昭和館見学作文コンクール 厚生労働大臣賞受賞作品	36
2 映像・音響関係	13	6 第8回昭和館高校生ポスターコンクール 入賞作品	37
3 ニュースシスター	14	7 施設概要	38
4 収蔵資料	14	8 平成27年度寄贈者御芳名	40
(1) 図書資料の収蔵状況	14		
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	15		

口 絵
外観写真





7階 常設展示室入口のトリックアート



7階 常設展示室「空襲警報発令」



6階 常設展示室「体験コーナー」



5階 映像・音響室



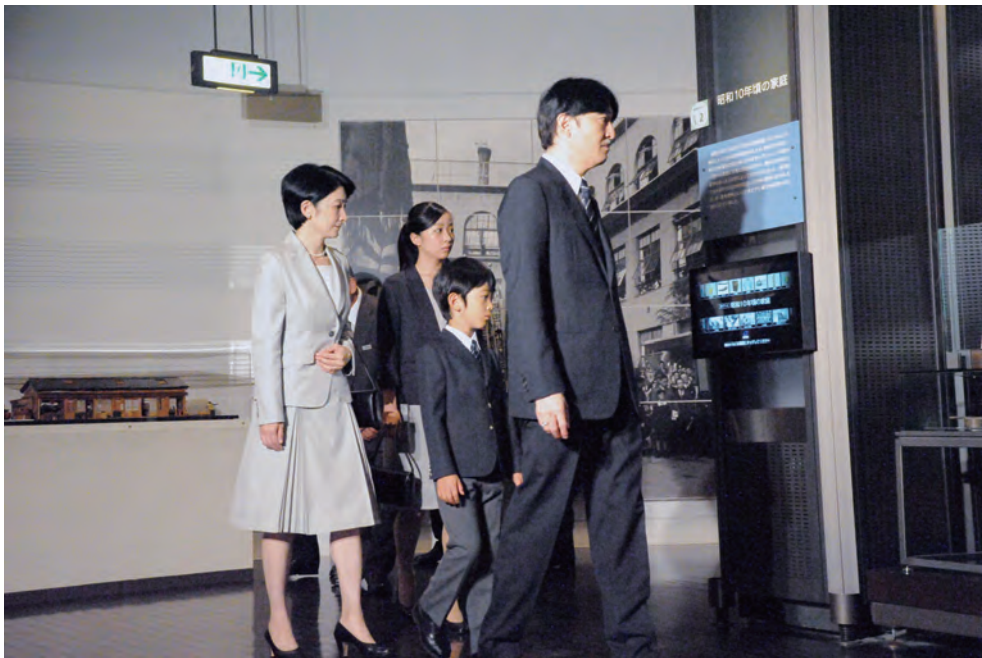
4階 図書室



1階 昭和館懐かしのニュースシアター
紙芝居定期上演会 (奇数月第4週日曜日)



皇太子同妃両殿下、愛子内親王が行啓
特別企画展及び常設展示室をご観覧
(平成27年7月26日)



秋篠宮同妃両殿下、佳子内親王、悠仁親王がお成り
特別企画展及び常設展示室をご観覧
(平成27年8月7日)



特別企画展

戦後70年 昭和20年という年 ～空襲、終戦、そして復興へ～
(平成27年7月25日～8月30日)



特別企画展

双六でたどる戦中・戦後
(平成28年3月19日～5月8日)



巡回特別企画展「もっと知りたい！戦中・戦後の暮らし」（長野展）
ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）ギャラリー
（平成27年10月17日～10月27日）



巡回特別企画展「もっと知りたい！戦中・戦後の暮らし」（和歌山展）
和歌山県民文化会館 大展示室、中展示室
（平成27年10月31日～11月8日）

ご あ い さ つ



昭和館は、国民が経験した戦中・戦後（昭和10年頃から昭和30年頃まで）の生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、国民生活上の労苦を次世代の人々に伝える国立の施設です。平成11年に設立以降、入館者総数も470万人（平成28年3月末現在）を超えるに至りました。これも、ひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、平成27年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

平成27年は、戦後70年に当たることから昭和館としても、様々な工夫を凝らして、事業を実施しました。

主なものとして特別企画展「昭和20年という年～空襲、終戦、そして復興へ～」、「戦後70年写真展」と題して昭和20年1月から12月までの間、記録写真を3期に分けて時系列に展示しました。さらに、しょうけい館・平和祈念展示資料館との連携による合同展示会・講演会（東京都千代田区）及び長野市、和歌山市で講演会を開催しました。

7月26日には、皇太子同妃両殿下、愛子内親王が行啓され、常設展示室及び特別企画展をご観覧されました。また、8月9日千代田区で行われた合同展示会にもご来場され講演者のご懇談されました。

8月7日には秋篠宮同妃両殿下、佳子内親王、悠仁親王がお成りになられ常設展示室及び特別企画展等をご観覧されました。

その他、映像音響室、図書室、昭和館懐かしのニュースシアター、資料公開コーナーなどにより、情報提供等を行ったほか、春の特別企画展、地方巡回特別企画展、2階広場での写真展、紙芝居の定期上演会、子ども霞ヶ関見学デー、小・中学生作文コンクール、高校生ポスターコンクール、紀要「昭和のくらし研究」発刊、オーラルヒストリー（体験証言）制作、貸し出しキッドの充実などに取り組んで参りました。

終わりに、今後とも次の世代、特に若い世代に戦中・戦後の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、様々な観点からの企画展の開催と種々な情報提供等が出来るよう、魅力ある運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年6月

昭和館
館長 羽毛田 信吾

フロア構成

常設展示室（入口）

7階

常設展示室（出口）

6階

映像・音響室

5階

図書室

4階

研修室・会議室

3階

広場

2階

ニュースシアター・受付・総合案内

1階

資料収蔵室

地下1階

設備管理室

地下2階

年間主要行事

平成27年	
3月21日～4月19日	写真展を開催 「春らんまん」
3月21日～5月10日	特別企画展を開催 「戦後70年よみがえる日本の姿～ オーストラリア戦争記念館 所蔵写真展」
4月25日～12月20日	写真展を開催 第一期4/25～7/12 第二期7/18～10/4 第三期10/10～12/20
5月24日～	紙芝居定期上演会（隔奇数月第4日曜日に開催）
6月30日	平成27年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
6月22日～6月24日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
7月10日	第8回関係施設等連携会議を開催
7月18日～8月30日	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」
7月25日～8月30日	特別企画展を開催 「昭和20年という年～空襲、終戦、そして復興へ～」
7月26日	皇太子同妃両殿下、愛子内親王が行啓
7月29日～7月30日	「子ども霞ヶ関見学デー」
7月31日、8月4日	教員のための博物館体験
8月7日	秋篠宮同妃両殿下、佳子内親王、悠仁親王がお成り
8月14日～8月24日 8月22日3館合同講演会	戦後70年3館合同企画展示会・講演会（日比谷図書文化会館） 「伝えたい あの日、あの時の記憶」 8月22日皇太子同妃同殿下、愛子内親王が展示会にご来場賜り 講演者のご懇談賜りました。
10月17日～10月27日 10月23日3館合同講演会	巡回特別企画展を開催（長野県にて） もっと知りたい！戦中・戦後の暮らし
10月31日～11月8日 11月7日3館合同講演会	巡回特別企画展を開催（和歌山県にて） もっと知りたい！戦中・戦後の暮らし
12月25日	紀要『昭和の暮らし研究』（第14号）を刊行
平成28年	
1月5日～1月9日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
2月24日	平成27年度第2回昭和館運営専門委員会を開催
3月1日～3月7日	映像・音響室の資料整理を実施（休室）
3月1日～3月14日	図書室の資料整理を実施（休室）
3月9日	第9回関係施設等連携会議を開催
3月18日	第14回昭和館運営有識者会議を開催
3月19日～4月17日	写真展を開催 「春のおとずれ～花見を楽しむ～」
3月19日～5月8日	特別企画展を開催 「双六でたどる戦中・戦後」

平成27年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等の事業を開催した。

(「V 特別企画展等の開催及び概要」参照)

1 常設展示

(1) 常設展示の概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

(2) 展示替え工事

平成27年度は、第7回常設展示室展示替え工事の計画等を行い、設置工事を平成28年1月5日(火)から9日(土)にかけて実施した。

本年度は、6階「慰霊の旅」コーナーに新たに大型タッチパネルディスプレイを設置し、国が行ってきた遺骨収容帰還、慰霊巡拝、国内での慰霊事業の様子などを紹介する「慰霊の旅 データベース」を設置、運用を開始した。

(3) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。平成27年度は6月22日(月)から24日(水)と、展示替え工事の期間に実施した。

2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

平成27年度は、次の通り実施した。

(1) 第27回巡回特別企画展

「もっと知りたい！戦中・戦後の暮らし」（長野展）

開催期間：	平成27年10月17日（土）～10月27日（火）
会場：	ホクト文化ホール ギャラリー （長野市若里1-1-3）
共催：	信濃毎日新聞社
協賛：	日本遺族会第2ブロック（長野県遺族会ほか）
後援：	長野県 長野県教育委員会 長野市 長野市教育委員会 長野市民新聞社 週刊長野新聞社 NHK長野放送局 SBC信越放送 NBS長野放送 TBSテレビ信州 abn長野朝日放送 INC長野ケーブルテレビ FM長野 FMぜんこうじ （公財）八十二文化財団
同時開催：	「平和祈念展 in 長野」主催：平和祈念展示資料館
会場：	ホクト文化ホール2階小ホール 「しょうけい館－戦傷病者史料館－長野展」主催：しょうけい館
会場：	ホクト文化ホール3階第2会議室 「戦後70年3館合同講演会「伝えたい あの日、あの時の記憶」」 講演会：10月23日（金）会場：ホクト文化ホール中ホール 講演者：櫻井眞 渡辺和巳 瀬田ひろ美 入場者数 403人
来場者数：	6,597人（約 660人／1日）*講演会参加人数を含む

(2) 第28回巡回特別企画展

「もっと知りたい！戦中・戦後の暮らし」（和歌山展）

開催期間：	平成27年10月31日（土）～11月8日（日）
会場：	和歌山県民文化館 大展示室、中展示室 （和歌山市小松原通り一丁目1番地 和歌山県庁正門前）
協賛：	日本遺族会第3ブロック（和歌山県遺族連合会ほか）
後援：	和歌山県 和歌山県教育委員会 和歌山市 和歌山市教育委員会 朝日新聞和歌山総局 読売新聞和歌山支局 毎日新聞和歌山支局 産経新聞社 ニュース和歌山 わかやま新報 NHK和歌山放送局 テレビ和歌山 エフエム和歌山 和歌山放送
同時開催：	「戦後70年3館合同講演会「伝えたい あの日、あの時の記憶」」 講演会：11月7日（土）会場：和歌山県民文化会館大ホール

講演者 高木道雄 島影美鈴 瀬田ひろ美
 入場者数 868人
 入場者数：6,781人（約754人／1日）*講演会参加人数を含む

(3) 戦後70年3館合同展示会・講演会「伝えたい あの日、あの時の記憶」

開催期間：平成27年8月14日（金）～8月24日（月）

会場：日比谷図書文化館 特別展示室（東京都千代田区）

内容：昭和館、平和祈念展示資料館、しょうけい館の国立施設3館が連携し、合同展示・講演会を行った。

同時開催：戦後70年3館合同講演会「伝えたい あの日、あの時の記憶」

講演会：8月22日（土） 会場：日比谷図書文化館

講演者：春成幸男、原口尚子、石丸謙二郎

入場者数 128人

皇太子ご一家がご来場され、講演者の方々とご懇談された。

入場者数 2,108人（210人／1日）



長野展



和歌山展

巡回特別企画展



日比谷図書文化館
3館合同展示会

3 貸出キット

全国の各市町村教育委員会や都道府県遺族会事務局のほか、「昭和館だより」の発行に併せ全国約16,000の小・中学校、高等学校にポスターとチラシを送付するなど広報に努め、更なる利用を呼びかけた。

なお、平成27年度の貸出状況は、次の通りである。

<貸出先> (貸出実施順)

(学校) 27校

加藤学園暁秀高等学校・中学校/相模原市立大野南中学校/千葉県白井市立白井中学校/尼崎市立立花南小学校/北区立滝野川第四小学校/刈谷市立富士松南小学校/越谷市立千間台小学校/鷗友学園女子中学高等学校歴史文化研究同好会/札幌市立琴似中学校/御所市立秋津小学校/葛飾区立上小松小学校/板橋区立板橋第十小学校/小平市立小平第一小学校/唐津市立浜玉中学校/小金井市立小金井第四小学校/南足柄市立福沢小学校/市川市立南行徳小学校/常滑市立鬼崎北小学校/千葉市立鶴沢小学校/杉並区立杉並第七小学校/千葉県富津市立青堀小学校/北区立滝野川小学校/横浜市立新田小学校/福井県小浜市立中名田小学校/栃木市立千塚小学校/会津若松ザベリオ学園小学校/鷗友学園女子中学高等学校

(地方自治体) 36自治体

横須賀市市民部市民生活課/鈴鹿市生活安全部人権政策課/和歌山市/堺市市民人権局人権部人権推進課/小牧市役所健康福祉部福祉総務課/青森県八戸市防災安全部防災危機管理課/東久留米市役所総務部総務課/川口市役所総務部総務課/埼玉県新座市総務部人権推進課/鹿児島県日置市役所/羽村市企画総務部企画政策課/文京区役所総務部総務課総務係/八王子市総務部総務課/宮崎県日向市役所総務部総務課/海老名市保健福祉部福祉総務課/埼玉県朝霞市/台東区役所総務課/寒川町役場 協働文化推進課/茨城県保健福祉部長寿福祉課/北海道栗山町保健福祉課/埼玉県八潮市まちづくり企画部人権・男女共同参画課/菰野町役場健康福祉課/埼玉県朝霞市/京都府健康福祉部福祉・援護課/鳥取県福祉保健部福祉保健課/千葉県健康福祉部健康福祉指導課/越谷市役所総務部総務管理課/鹿児島県保健福祉部社会福祉課/犬山市健康福祉部福祉課/金沢市役所福祉局福祉総務課/足利市教育委員会文化課/東京都西多摩郡瑞穂町/千代田区国際平和・男女平等人権課/府中市文化スポーツ部/渋谷区役所企画部文化振興課/新宿区総務部総務課

(一般団体) 31団体

本門佛立宗 東京常盤布教区/宗) 妙深寺/豊橋市平和教育研究委員会/綾瀬市遺族会/(株)ベネッセスタイルケアまどか東伏見/国民学校と集団疎開を考える会/米沢市上杉博物館/雲南市遺族会/江古田区民活動センター運営委員会/金光教東京センター/新宿区立戸山図書館/熊本日新新聞社/港区立台場高齢者在宅サービスセンター/浜松市遺族会/(株)ベネッセスタイルケアまどか東伏見/茨城県常陸太田市遺族連合会/宇都宮市立南図書館/一般財団法人神奈川県遺族会/一般財団法人島根県遺族連合会/庄原市戦没者遺族会/愛知県碧南市遺族連合会/銚子市遺族会/浜松市雄踏町遺族会/苫小牧市遺族会/宇陀市遺族会/壬生野地域まちづくり協議会人権・同和実行委員会/海士町中央公民館/一般財団法人石川県遺族連合会/社会福祉法人益田市社会福祉協議会/(株)テレビ新潟放送網/国民学校と集団疎開を考える会

4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居とワークショップの要素を取り入れた体験型の上映会を、紙芝居師の森下昌毅氏ほかの演者により実施した。

なお、入場者の状況は以下の通りである。

上演	月	入場者
平成27年	5月	101人
	7月	192人
	9月	142人
	11月	108人
平成28年	1月	85人
	3月	202人
合計		830人

5 教員のための博物館体験

学校と博物館の連携を図ることを目的に、小中高校の教職員を対象とした博物館体験の日を実施した。

開催日：平成27年7月31日（金）10：00～12：30

8月4日（火）10：00～12：30

8月25日（火）12：30～14：30

- 内 容： ① 学芸員による展示趣旨・方法の解説
② 収蔵庫等のバックヤード見学
③ 貸出キットの紹介
④ 意見交換

参加者：7月31日 小学校教諭4名、中学校教諭2名
高等学校教諭2名 計 8名

8月4日 小学校教諭7名、中学校教諭2名
支援学校教諭1名、取材(マスコミ)1名
計11名

8月25日 小学校教諭7名 計 7名

6 実物資料の収集と保存

(1) 実物資料の収集

平成27年度は、「名古屋市関連ポスター」231点、「飯塚稔児作油彩画、他」等1,889点の寄贈を受け、「赤十字双六」、「鉄兜（竹製）」等527点の購入を行った。また、本年度より井上雅由氏が記した戦前～戦後にかけての日記資料の寄託を受け管理を開始した。

収蔵資料数は次表の通りである。（平成28年3月末現在）

寄 贈 資 料	37,691点
購 入 資 料	12,872点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,243点
寄 託 資 料	485点
合 計	54,291点

(2) 実物資料の保存と補修

平成27年度末までに収集した実物資料は、全て燻蒸処理を行い、整理、分類した上、地下1階の資料収蔵室で保管を行っている。

なお、破損・汚損の激しい紙製資料等約30点に対して補修を行った。

(3) 実物資料の貸出実績

平成27年度における館外への資料貸出は、3件70点であった。

- ・城西国際大学水田美術館
「昭和大東京百図絵版画」 計36点
- ・千代田区教育委員会
「疎開先で教員が描いた絵」他 計18点
- ・松戸市立博物館
「防空頭巾」 他 計16点

Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書・雑誌・地図等を閲覧に供している。

閲覧室には座席30席のほか、所蔵資料や『戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム』等のデジタル情報及び『文藝春秋』等の雑誌データベースが閲覧できる端末を6台設置し、タッチパネルとキーボードの両方で使えるようにしている。また国内の類似施設情報が閲覧できる端末1台を設置し、来館者の利用に供している。

利用頻度が高い基本図書や総合的な内容をもつ図書を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は比較的使用頻度の高いものは4階書庫、その他は地下書庫に収蔵し、劣化の激しい図書は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは寄贈図書の一部を随時紹介している。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

平成27年度のレファレンス・サービスは555件、1日平均約2件で、特に8月の夏休み期間に多かった。レファレンスの内容は書籍の所蔵確認だけではなく、考証に関するものが多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積し、利用ガイドなどに反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて利用・検索の方法や、所蔵図書を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示テーマに即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

図書室においては、今年度から新しい継続企画として平成27年度から「あなたの出身地は？ 昭和館で見られる47都道府県の資料」

と題し、各都道府県の関連資料の紹介をしたほか、大人から子どもまでを対象に、その都度、話題になっている事柄に関連する図書などを「図書室員が読んだ本」のコーナーで紹介した。今年度は天皇皇后両陛下のパラオ諸島ご訪問、フィリピン沖海底での戦艦武蔵の発見等のニュースに関連した資料、今年が節目の年となる事柄（高校野球 100年、内閣制度 130年等）に関連した資料、逝去した人物（阿川弘之、原節子、水木しげる等）に関連した資料等を取り上げた。

平成27年度は夏と春の特別企画展及び資料公開コーナーでの展示内容などに関連した図書・雑誌の公開を行った。

7月19日（土）から9月7日（日）まで、小学校高学年から中学生を対象に、「夏休み宿題・研究資料リスト」を作成して希望者に配布するとともに、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。また、同期間、小学生を対象にした「夏休みワークシート」では、「昭和20年」をテーマにして作成し、前年度までに作成した「学童疎開」「学校生活」「空襲」とあわせて配布し、調べ学習の実践を推進した。

平成27年7月7日（火）より7月20日（月）の間、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した「シベリア抑留を描く VOL.3 心に刻まれた姿」に関連して、シベリア抑留関係資料のコーナーを設けるなど、館内外との協力・連携をはかった。

⑤ ホームページ

図書室の紹介ページでは、開架図書を書架ごとに紹介するとともに、閲覧室内で紹介している資料を入れ替えごとに掲載し利用を促している。

「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受け付けた。

資料募集のお知らせを掲載し、広く資料の寄贈を呼びかけている。

蔵書検索ページは、毎月データを更新し、館外からも検索できるようにしている。蔵書検索は、横断検索もできるほか、タイトルや著者名、フリーワードでの検索などさまざまな方面からできるようにしている。あわせて、過去のレファレンス事例もキーワードで検索して見ることができるようにしている。

⑥ 蔵書点検

平成28年3月1日（火）から3月14日（月）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。開架図書及び閉架雑誌を重点的に点検し、破損が著しい図書の修理や製本を行った。また、図書・雑誌の和書資料の増加にともない、蔵書の移動を行った。

⑦ 利用状況

平成27年度 図書室入室者及び閉架資料利用状況（月別）

	入室者数	閉架資料	
		利用者数	利用冊数
平成27年4月	1,299	159	519
5月	1,367	166	718
6月	1,434	172	583
7月	1,653	219	892
8月	4,012	167	517
9月	1,323	149	497
10月	1,198	155	598
11月	1,871	161	715
12月	2,292	119	467
平成28年1月	1,893	125	358
2月	1,526	140	575
3月	631	102	432
合計	20,499	1,834	6,871

平成27年度 閉架資料の利用冊数（分野別）

分野	図書	雑誌
総記	167	1,528
哲学	51	0
歴史	918	116
社会科学	1,663	426
自然科学	29	153
技術・工学・工業	407	181
産業	125	18
芸術	177	314
言語	16	0
文学	525	25
合計	4,078	2,761

- ・図書の利用内訳は、「社会科学」では部隊史等を含む国防・軍事関係が多く、「文学」では体験記録・手記の利用が多かった。
- ・雑誌の「総記」には、週刊誌及び娯楽誌など一般雑誌が含まれる。
- ・図書・雑誌以外では、地図31点が利用された。

(2) データ管理

① 収蔵図書データの管理

収蔵図書の書誌・所蔵データは随時点検、追加入力および修正作業を進めている。平成27年度は2,062冊の書誌データの入力と装備を行った。

② 目次データ入力

図書検索システムでは、図書の書誌・所蔵データの他に目次データも入力し、目次を含めた情報を検索対象として「ことば」検索に役立たせている。平成27年度は2,062件の目次データ入力を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、平成27年度は37冊の製本及び合本をし、256冊の破損本を修理した。

なお、劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供など図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に職員業務研修に参加した。

平成27年度は、日本図書館協会主催の第101回全国図書館大会（平成27年10月15日～16日開催：於 国立オリンピック記念青少年総合センター）、国立国会図書館が主催する「全国書誌データ・レファレンス協同データベース利活用研修会」（平成27年8月21日開催：於 国立国会図書館）などに出席し、業務の向上と他館との情報交換に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室では、戦中・戦後の国民生活に関する映像・音響資料等について、検索端末を通して来館者へ提供している。検索端末15台を設置し、うち2台は多人数で同時に利用が可能な団体専用ブース、1台は当館類似施設の各ウェブサイトを紹介する専用端末、12台は映像・音響資料を検索する端末となっている。

上記の運用のほかに、パソコン操作が得意でない来館者も利用できることを目的に、「国民生活」「トピックス・著名人の顔」「スポーツ」「世間を騒がせた出来事」のニュース映画を簡単に閲覧できる検索コーナーやSPレコードの一

部を試聴できるコーナー（平成27年度は流行歌や社歌・校歌等といったテーマで紹介した）を設け、その順調な運用に努めている。

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画を毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館懐かしのニュースシアター」は、平成27年度において196作品を上映し、多くの来館者から好評を得ている。

平成27年7月7日（火）より7月20日（月）にかけて平和祈念展示資料館が九段生涯学習会館において「シベリア抑留を描く VOL.3 心に刻まれた姿」を開催したのにもない、シベリア抑留者の帰国関係のニュースが盛り込まれているニュース映画を特集して上映した。

4 収蔵資料

(1) 図書資料の収蔵状況

平成27年度は、前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や少年少女雑誌・児童向け図書などを中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。（平成28年3月末現在）

国民生活関係図書	55,557冊
戦争に関する基本的図書	19,064冊
独自資料	35,980冊
その他基本図書	11,393冊
合計	121,994冊

<平成27年度の主な受入資料の内訳>

○ 国民生活関係	2,130冊
・ 当時刊行された雑誌類や生活体験記等	
『私の「戦後70年談話」』	
『軍都東京占領下の東京』	
『証言記録市民たちの戦争』	
『「家庭の味」の戦後民族誌 主婦と団欒の時代』等	
○ 戦争に関する基本的図書	654冊
・ 太平洋戦争関連の基本文献、部隊史、戦争関連の体験記等	
『「昭和天皇実録」にみる開戦と終戦』	
『シリーズ戦争孤児』	

『徴兵体験 百人百話』
『軍歴証明の見方・読み方・とり方』等

- その他 53冊
- ・ 寄贈を受けた各類似施設の刊行物等
『国立歴史民俗博物館研究報告』『東京都江戸東京博物館紀要』等
 - ・ 定期購読誌
『文藝春秋』『中央公論』『新潮45』『正論』『丸』等

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。平成27年度は、海外資料調査の課程で米国フレンド奉仕協会（フィラデルフィア市）がララ物資関係の写真を所蔵していることが確認でき、394点を入手し、検索システムでのデータ提供に向けて整理作業を行っている。

<平成27年度の主な受入資料の内訳>

○ 資料の購入		
・ 記録写真		
アメリカ・フレンズ奉仕団所蔵写真	394点	
・ 記録映像		
日本ニュース	61作品	
○ 資料の寄贈		
・ 記録写真	472枚	
・ 記録フィルム	0作品	
・ 音響資料	2点	

<平成28年3月末現在の提供データ件数>

	データ件数
静止画資料	19,849件
動画資料	2,817件
音響資料	11,839件
計	34,505件

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内132カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

特に図書資料については千代田区内の関連施設・大学図書館との横断検索ができるようになっている。

1 運用管理

(1) システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌など）及び類似施設等の関連情報を提供している。来館者が様々な条件から資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルはなかった。

平成27年度の各データベースへのアクセスカウントをまとめたのが次表である。アクセス総数は476,495件、月平均約25,530件で、多くの来館者に利用されている。

	写 真	映 像	音 響	図 書	雑 誌	個別DB	月別合計
平成27年4月	19,567	4,614	4,211	2,391	1,466	214	32,463
5月	26,302	6,896	5,569	2,899	2,729	222	44,617
6月	21,586	8,789	4,866	2,541	1,845	304	39,931
7月	26,467	9,155	5,926	2,613	2,321	294	46,776
8月	32,967	12,883	8,979	3,144	1,371	520	59,867
9月	21,403	7,207	6,275	2,960	1,336	267	39,448
10月	22,680	7,006	5,208	2,680	1,479	208	39,261
11月	16,332	9,213	5,671	2,988	1,845	322	36,371
12月	17,329	8,436	6,757	3,869	1,088	314	37,793
平成28年1月	17,407	6,385	6,762	2,489	1,169	304	34,516
2月	18,301	7,552	6,435	3,499	1,229	290	37,306
3月	15,349	5,949	4,073	1,632	1,039	107	28,149
合 計	255,690	94,085	70,732	33,705	18,917	3,366	476,495

(2) データベース運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

- 収蔵図書・雑誌目次情報（総合データベース）
収蔵図書や雑誌の書名・著者名・雑誌名等書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力しており、「目次情報」からも検索ができるようになっている。
- 収蔵映像・音響資料情報（総合データベース）
収蔵している静止画（写真）、動画及び音響資料（SPレコード）を、タイトルや作曲者名等の資料情報から検索でき、目的の映像または音楽を表示し、また視聴できるようにしている。
平成24年度は、進駐軍として日本に滞在していたオーストラリア軍が昭和20年代に撮影した写真、および昭和10～30年代のニュース映画などを閲覧できるようにした。
- デジタル図書・デジタル雑誌（個別データベース）
昭和館で独自に開発したデータベースで、図書は『大衆文化事典』『日本生活図引』をそれぞれ検索でき、雑誌は『中央公論』『文藝春秋』『婦人公論』『写真週報』『時事年鑑』『放送ニュース解説』『改造』が統合され、データベース化されている（『改造』は作業継続中）。各雑誌間での横断検索をできるようにしている。
- 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム（個別データベース）
防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデータベース化し、横断検索を可能にして、利用の便を高めている。

(3) ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っている。
平成27年度のアクセス数は次のとおりであった。

・平成27年度	193,795件
・平成27年度月間平均	16,149件
・開館時からの累計	2,402,508件

内「キッズナビ」へのアクセス数

- ・平成27年度 13, 268件
- ・平成27年度月間平均 1, 105件
- ・平成18年（導入時）からの累計 169, 348件

2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年引き続き実施した。

平成27年度は戦没者妻や遺児による戦没者への遺族の想いや、戦中・戦後の苦しかった生活体験などを中心に、学徒動員の体験、母子で外地から引揚げてきた体験など、33名の証言（36作品）の収録を行った。

タイトル	証言者
中国への出征と復員	井上 明
叔母と逃げた東京大空襲	近藤 英子
空襲の思い出	梅田 佳声
紙芝居師となるまで	梅田 佳声
戦時下中学生の歩みと東京大空襲	前沢 正己
長崎での被爆	中岳 律子
疎開先で病気に…	川田 洋子
養蚕業と戦時下の暮らし兵隊になるのが当たり前だった。	中林 利重 中林 キミ
学徒勤労働員と戦後の自動車製造	浅井 恒郎
魂となって帰ってきた夫	牧野 笑子
兄2人の出征と戦死	松浦 正明
父を探してシベリアへ	阿部 溥
初めて「お父さん」と呼んで	恒川 利雄
戦中・戦後の母との暮らし	玉田 義郎
姑と二人三脚の生活	飯塚 時子
遺児として、そして教師として	樋口 美千子
父への思いと戦後の生活	河西 和雄
沖縄の地に父の足跡をたどって	武井 邦夫
母子3人の絆、母への感謝	山中 太恵子
信じられなかった夫の戦死	瀬戸川 庸
子どもの心を豊かにしたい 教師としての戦中・戦後	瀬戸川 庸
シベリアでの抑留体験と兄2人の弔い	中島 実
友人の死と自責の念	小島 秀治郎
樺太での暮らし	藤原 剛
父の出征、そして終戦までの暮らし	足利 繁明

父の戦死と家族3人の戦後	伊藤 薫
小学生が見た戦中・戦後	伊藤 薫
遺児としての戦後の労苦	櫻井 巖
父の残した日記と戦中戦後の暮らし	岡田 英高
父の戦死と辛かった農作業	石野 侃
父待つ子等	高橋 健一
6歳の引揚げ	森田 邦子
言いようのない苦勞	高垣 ヨシ子
空襲、原爆の思い出	春藤 嘉雄
軍国少年が見た空襲、終戦	梶浦 洋一
母の苦勞と父への想い	阿部 正子

3 海外資料調査の実施

戦前から多くの日本人が移住し、戦後來日して復興に貢献した日系二世兵士が多いアメリカ合衆国ハワイで、日系二世兵士遺家族の互助組織である442部隊サン&ドーターアソシエーションに対し聞き取り調査を実施し、個人所有の実物資料や映像資料の所在を確認した。また、ハワイ大学マノア校図書館やハワイ日本文化センターなども映像資料の所在を確認した。

今後、常設展示室などでの展示や資料閲覧に活用可能な資料の調査を実施・入手し、将来特別企画展を開催することを検討していく。

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

「昭和館館報」については、都道府県、政令都市、東京特別区、教育委員会、老人クラブ連合会、各省庁図書館等に対して送付している。なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和館館報」と「昭和のくらし研究」を併せて送付し、当館の周知を図っている。

また、昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより」24号を6月下旬から7月上旬に1都3県（6年生）の小学校来館校、東京23区（2年生）の中学校来館校、千代田区内の私立・公立小学校（全校生徒）、東京都の校長会等で配付依頼した小学校（5、6年生）、中学校（2年生）と1都3県の小学校社会科研究協議会、中学校社会科教育研究会に発送した。更に、校長会等に参加をして事業の説明を行い来館の促進を図った。

なお、全国の小・中・中等教育校及び来館団体、来館高等学校、小学校社会科研究協議会、中学校社会科教育研究会に対しては12月に「昭和館だより」25号、リーフレット、貸出キットチラシを送付し当館の実施事業の周知を図ることに努めた。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館の事業内容のPRのために、九段下駅4出口、東西線ホーム、半蔵門線ホームに電飾掲示板を設置して、事業内容のPR活動をしている。

また、特別企画展開催等の際には、都営新宿線の車内に、窓上ポスターを掲示したり、九段郵便局等にポスターを掲示する等PRに努めている。

なお、郵便局の利活用については、巡回特別企画展においても行っている。さらに、毎月発行される「沿線だより」、都営地下鉄・東京メトロ「ちかたく」、及びJTBや千代田区等のガイドブック、月2回発行される千代田区区報等に当館の紹介記事を掲載している。

その他、全私学新聞と月刊教育旅行に広報記事を掲載している。

(3) 子ども霞ヶ関見学デー

文部科学省主催で開催している「子ども霞ヶ関見学デー」が各省庁を会場として開催された。厚生労働省社会・援護局の企画として「戦後70年昭和にタイムスリップ！？何が違うの？戦中・戦後の暮らしと今！～伝えたい、あの日、あの時の記憶！子どもたちが遊んでいたグライダー工作やあめ細工の実演もあるよ！～」のタイトルで、貸出キットや雑誌資料、写

真映像資料等による出張展示を行った。

また、文部科学省の会場では、昭和館の紹介ポスターを掲示し、チラシの配布を行った。

- ・開催期間 平成27年7月29日(水)～30日(木)
- ・会場 厚生労働省 講堂
- ・来場者数 887人

(4) 第14回昭和館見学作文コンクール

昭和館および巡回特別企画展を見学した小・中学生を対象に、見学作文コンクールを実施した。1校の中学2年生、5校の小学校(6年生)と、個人5名(小4・小6)の合計398作品の応募があった。

審査の結果、国立市立国立第五小学校6年生の三田ひとみさんの作品が厚生労働大臣賞(別掲)に、茅ヶ崎市立汐見台小学校6年生の栗原那綺さんの作品が昭和館館長賞に選ばれた。

(5) 第8回昭和館高校生ポスターコンクール

高校生を対象に、昭和館に対する周知と理解を広め、多くの方の来館及びホーム・ページの閲覧を得ることを目的として「第8回昭和館高校生ポスターコンクール」を実施した。全国の高等学校にチラシを発送する等して募集したところ、合計264作品の応募があった。

審査の結果、岐阜県立岐阜総合学園高等学校 近藤 寛子さんの作品が最優秀賞に(別掲)、優秀賞(別掲)に7作品、佳作に12作品が選ばれた。

第14回 昭和館見学作文コンクール

見学して思ったこと、調べたことなど。

見たこと、感じたこと、自由に書いて応募しよう。

平成27年7月1日 から 平成28年1月15日まで

募集期間

応募 小・中学生を対象に、クラス単位か個人で応募してください。

応募形式 400字詰原稿用紙2〜3枚の作文形式
応募作品は返却しません。あらかじめ作品をコピーして、原本でも応募ください。

送付方法 一次選考では全作品を審査し、送付作品は二次選考で審査委員増数によって審査します。

発表 各賞の発表は本人(学校)に通知後、昭和館ホームページで行います。賞状・副賞は郵送します。

優秀作品は昭和館ホームページに掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

昭和館

お問い合わせの申し込み先
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
TEL: 03-3222-2577 FAX: 03-3222-2575
ホームページ: <http://www.showakan.jp>

個人賞
●最優秀賞 1名
●優秀賞 1名
●佳作 8名
●準佳作 25名
●奨励賞 2名

作文コンクール

昭和館を見学して
ポスターにしてみよう。

第8回 昭和館
高校生ポスターコンクール

募集テーマ あなたが学んだ戦中・戦後の昭和の暮らし

募集期間 平成28年1月15日(金)まで

優秀賞
小松原女子高等学校
保原 颯花さん

佳作
岐阜県立岐阜総合学園高等学校
大平 寛子さん

昭和館
戦中・戦後の暮らし

昭和館は戦中・戦後の国民の暮らしを次の世代に伝える国立の施設です。

昭和館
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
TEL: 03-3222-2577 FAX: 03-3222-2575
<http://www.showakan.jp>

詳細は裏面に書いてください。

ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を次の世代に伝える」事業の一環として、紀要『昭和のくらし研究』第14号（戦後70年特集）を平成27年12月に刊行した。（平成15年度から年1回刊行）

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第14号 目次		
□ 絵		
爆撃と封鎖－1945年夏の軍事的現実	赤木	完爾
昭和20年と明治10年	鈴木	淳
警察官石川光陽からみた終戦前後の東京	松尾	公就
宮崎神宮「日誌」に見る昭和20年	渡邊	一弘
昭和20年の写真家たち	新城	敦
昭和20年の水路部の動向と 昭和館所蔵の海図管理について	藤川	和史
戦後復興・高度経済成長と河川 一東京都中央区を例として	杉本	隆一
資料紹介 井上雅由「絵入毛筆日記」を読む 昭和館学芸部	坂尻	麻子
昭和館学芸部	吉葉	愛
昭和館所蔵 公刊された昭和20年の日記目録	佐藤	綾子
『昭和館のくらし研究』第14号 付録DVD		



昭和のくらし研究第14号

3 展示資料の貸出

- 「戦後70年特別企画展～魂の叫び、今あなたに伝えるメッセージ」
 - ・開催期間 ① 平成27年5月30日～6月21日
 - ・会場 ① 浜松復興記念館展示ロビー及び会議室
 - ・貸出資料 映像資料5点

- 「第31回平和を考える戦争展」(富田林市)
 - ・開催期間 ① 平成27年7月10日～8月9日
 - ・会場 ① すばるホール3階展示室
 - ・貸出資料 写真画像10点

- 「終戦70年企画展 東村山地域をめぐる銃後と前線」
 - ・開催期間 ① 平成27年7月11日～8月30日
 - ・会場 ① 東村山ふるさと歴史館
 - ・貸出資料 写真画像2点

- 「平和への想いをつづる ーかけがえのない一冊へー」
 - ・開催期間 ① 平成27年7月22日～8月23日
 - ・会場 ① 新宿区立鶴巻図書館
 - ・貸出資料 写真画像3点

- 「こどもと戦争～青い目の人形」
 - ・開催期間 ① 平成27年8月4日～8月23日
 - ・会場 ① 新宿区立戸山図書館
 - ・貸出資料 写真画像4点

- 「平和展」(府中市)
 - ・開催期間 ① 平成27年8月6日～8月12日
 - ・会場 ② ルミエール府中
 - ・貸出資料 映像資料2点

- 「第12回むかしのくらし展～戦争とくらし」
 - ・開催期間 ① 平成27年9月12日～12月6日
 - ・会場 ② 新潟市歴史博物館
 - ・貸出資料 映像資料1点

○ 「太平洋戦争と戦後70年特別企画展・巡回展」及び常設展示（せたがや平和資料館）

- ・開催期間 ① 平成27年8月1日～8月31日
- ② 平成27年9月1日～9月13日
- ③ 平成27年9月15日～9月27日
- ④ 平成27年9月29日～10月13日
- ⑤ 平成27年10月15日～10月21日
- ・会場 ① 世田谷区立教育センター
- ② 北沢タウンホール
- ③ 尾山台地区会館
- ④ 烏山区民センター
- ⑤ 祖師谷まちづくりセンター
- ・貸出資料 写真画像8点

4 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

（平成28年3月31日現在。50音順、敬称略）

委員長	宮脇 岑生	（元国立国会図書館副館長）
委員	赤木 完爾	（慶應義塾大学教授）
〃	上野 憲示	（文星芸術大学学長）
〃	加納 正弘	（元厚生省大臣官房審議官）
〃	北原 進	（品川区立品川歴史館館長）
〃	坂本 正彦	（世田谷区立経堂小学校校長）
〃	鈴木 淳	（東京大学教授）
〃	花輪 隆昭	（元昭和館館長）
〃	松井 かおる	（江戸東京たてもの園学芸員）

5 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭

和館運営有識者会議」を設置し、これまでに14回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(平成28年3月31日現在。順不同・敬称略)

委員長	波多野 澄 雄	(筑波大学名誉教授)
委員	國 松 善 次	(一般財団法人滋賀県遺族会顧問)
〃	池 田 維	(公益財団法人交流協会顧問)
〃	多 田 宏	(一般社団法人シルバーサービス振興会理事長)
〃	増 田 弘	(東洋英和女学院大学国際社会学部教授)
〃	上安平 洌 子	(元NHKグローバルメディアサービス企画事業担当部長)
〃	神 津 カンナ	(作家・エッセイスト)
〃	田 中 繁 広	(文京区立第一中学校主任教諭)

6 インターンシップ

飯田橋公共職業安定所（ハローワーク飯田橋）からの依頼により、高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ（就業体験）」を実施し、8月25日（火）～27日（木）まで東洋高等学校3名、9月29日（火）～10月2日（金）まで神津高等学校1名、を受入れ、職員の下、当館の業務を体験させた。

7 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議（昭和館事務局）を開催するとともに、平和祈念展示資料館、しょうけい館との3館の連携に取り組んでいる。

〔 関係機関：厚生労働省援護企画課、総務省特別基金事業推進室
平和祈念展示資料館、しょうけい館、昭和館 〕

(1) 第8回会議を7月10日に開催
第9回会議を3月9日に開催

(2) 戦後70年3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施
開催期間：平成27年7月18日（土）～8月30日（日）
参加者数：3, 393人

- (3) 移動教室「シベリア抑留を描く一二人の画家展 VOL.3」を開催
 開催期間：平成27年7月14日（火）～7月20日（月・祝）
 主催：平和祈念展示資料館
 協力：昭和館、しょうけい館
 場所：九段生涯学習館 2階 九段ギャラリー
 ○昭和館では、同時期にシベリア等、引き揚げに関する映像の特別上映を行った。
- (4) 戦後70年3館合同展示会・講演会「伝えたい あの日、あの時の記憶」
 8月14日（金）～8月24日（月） 入場者数2, 108人
 ○講演会 8月22日（土） 入場者数 128人
 場所 日比谷図書文化会館（東京都千代田区）
 （8月22日皇太子同妃両殿下、愛子内親王が展示にご来場賜り、講演者とのご懇談賜りました。）
 ○講演会 10月23日（金） 入場者数 403人
 場所 ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）中ホール
 ○講演会 11月7日（土） 入場者数 868人
 場所 和歌山県民文化会館大ホール
- (5) 巡回特別企画展の相互協力
- ・長野県における巡回特別企画展においては、平和祈念展示資料館、しょうけい館と同時期、同一施設で開催し、連携の強化に努めた。
 - ・和歌山県においても、平和祈念展示資料館、しょうけい館との同一施設で合同特別展示を開催し連携を図った。

8 皇室の来館

- ① 7月26日（日）皇太子同妃両殿下、愛子内親王が行啓され、特別企画展「昭和20年という年～空襲、終戦、そして復興へ～」及び常設展示室をご観覧された。
- ② 8月7日（金）秋篠宮同妃両殿下、佳子内親王、悠仁親王がお成りになられ、常設展示室、特別企画展「昭和20年という年～空襲、終戦、そして復興へ～」、「戦後70年写真展」第2期「それぞれの終戦」をご観覧された。

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1 特別企画展

「昭和20年という年～空襲、終戦、そして復興へ～」

戦後70年となった本年、激動の昭和20年を1月～8月、8月15日前後、9月～12月の3つの時期に分け、国内の様子を実物資料の展示を中心に紹介した。7月26日（日）には皇太子ご一家の行啓、8月7日（金）には秋篠宮ご一家のお成りをいただいた。

開催期間：平成27年7月25日（土）～8月30日（日）

会 場：昭和館3階 特別企画展会場

<展示構成>

プロローグ 昭和20年までの出来事

- I 空襲にさらされる日本
徴兵／学校生活／学童疎開／
勤労働員／物資の欠乏／
東京の空襲／全国の空襲被害／
米軍沖縄上陸／国民義勇隊／
広島・長崎原子爆弾の投下

- II 終戦 8月15日
玉音放送／
人びとがどのようにとらえたか～
手紙、日記に記された終戦／
終戦直後の混乱

- III 混乱の中からの出発
焼け跡での暮らし／GHQの進駐
／授業再開／疎开学童の帰宅／
復員・引揚げ／戦災孤児／闇市／
買い出し／再生品／宝くじ／
娯楽の復活／生活の再建

昭和館特別企画展
戦後70年
昭和20年という年
1945
～空襲、終戦、そして復興へ～

告警襲空
目次：米空軍の襲撃、空襲の被害、空襲の被害、空襲の被害

平成27年 7.25(土) ▶ 8.30(日)

会場：昭和館3階 特別企画会場
開催時間：10:00 ▶ 17:30 (入館は17:00まで)
休館日：毎週月曜日

昭和館
〒102-0074 東京都千代田区本町1-6-1
TEL: 03-3522-2577 FAX: 03-3522-2575
URL: <http://www.showa.or.jp>

●7-6階には資料展示室(観覧料以上有料)があります ●団体予約承ります
●交通のご案内：電車ご利用の場合は 地下鉄丸の内線千代田駅1号(東口)から丸の内線千代田駅南口徒歩1分(東口)から丸の内線千代田駅南口徒歩1分
●お車ご利用の場合は 原宿高島町バス停から徒歩1分(丸の内線千代田駅)
●お電話予約：03(3)3522-2575(受付時間10:00～17:00)

入場無料

エピローグ 昭和21年以降の日本の
あゆみ
特集コーナー 昭和20年の出版物

来場者数：22,154人
(約691人/1日)

<イベント>

「学芸員による展示解説」

特別企画展会場

期 日：8月9日(日)、23日
(土)

会 場：特別企画展会場

参加者数：132人

2 特別企画展

「双六でたどる戦中・戦後」

第1期：時局・教育・広告を中心に

第2期：憧れ・流行り物を中心に

双六は遊び道具であるにもかかわらず、その内容や絵柄などに当時の社会情勢や風俗・流行が取り入れられた。子どもたちへの教育的内容や、憧れ、国内外の様子などを描いたものが、戦争が始まる昭和12年(1937)頃から次第に兵隊などが描かれるようになり、戦争一色の内容となっていく。戦後は、世界の子供達との友好や科学進歩などを紹介した平和的な内容や、人気キャラクターを描いた双六が主流となった。

本展では、戦中・戦後の双六のなかから130点をテーマに分けて展示し、時代の変化を紹介した。併せて関連する実物資料などの展示も実施した。

開催期間：第1期：平成28年3月19日(土)～4月10日(日)
第2期：平成28年4月12日(火)～5月8日(日)

会 場：昭和館3階 特別企画展会場

<展示構成>

【第1期】

双六の歴史、社会情勢、理想の子ども像、商業広告、出征、終戦前後の双六、玩具の版元、正月の遊び道具

【第2期】

旅行、乗り物・社会技術、流行り物、スポーツ・冒険、変形双六

来場者数：40,078人
(約891人/1日)

<イベント>

1 昭和体験イベント

大道芸、チンドン屋の実演、
ポン菓子製造、昔の遊びな
どを中心としたイベントを
実施した。

期 日：4月2日(土)、
3日(日)

会 場：2階体験ひろば/
1階ニュースシアター

参加者数：2,332名



2 ミニ展示会・講演会

期 日：5月1日(日)

会 場：九段生涯学習館2階 九段ギャラリー

内 容：第1期に紹介した双六11点を生涯学習館にて再展示した。

講演題目：「すごろく」と世相

講演者：山本正勝氏(双六研究者・収集家)

参加者数：291人(講演会46人)

3 展示解説

学芸員による展示解説

期 日：3月26日(土)・4月30日(土)

会 場：3階 特別企画展会場

参加者数：63人



3 「昭和の日」記念イベントの開催

「昭和の日（4月29日）」を中心として、記念イベントを開催した。

- 1 「常設展示室」の無料入場
来場者数： 430人
- 2 「ハーモニカで綴る昭和歌謡史」
（昭和の流行歌をハーモニカ演奏により紹介）
演奏者： 斎藤寿孝氏（ハーモニカ奏者・講師）
会場： 1階ニュースシアター
来場者数： 166人

4 写真展

「戦後70年写真展－知っていますか、70年前のこと」

開催期間：第1期 昭和20年1～7月「空襲と人々の生活」
4月25日（土）から7月12日（日）まで
第2期 昭和20年8～9月「それぞれの終戦」
7月18日（土）から10月4日（日）まで
第3期 昭和20年10～12月「戦争の傷跡、新たな旅立ち」
10月10日（土）から12月20日（日）まで

会場：昭和館2階広場

展示内容：今から70年前の昭和20年は、戦中と戦後が共存した年だった。その昭和20年の1月から12月までを3期に分けて時系列で紹介した。

来場者数：80,854人
（約404人/1日）



5 写真展

「桜のおとずれ ～花見を楽しむ～」

開催期間：平成28年3月19日（土）から4月17日（日）

会 場：昭和館2階広場

展示内容：戦前から戦後の各地の桜と花見をする人々の表情を紹介した。春をテーマとしたSPレコードの音源を会場で放送した。

来場者数：12,450人
(約479人/1日)



6 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する映像資料・写真資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーの一角にコーナーを設けて、資料を随時公開している。

平成27年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

回数	テーマ	期間
第55回	卒業と入学	平成27年3月10日（火） ～ 4月19日（日）
第56回	終戦前後のSPレコード	平成27年4月21日（火） ～ 6月28日（日）
第57回	北陸の人々と暮らし	平成27年6月30日（火） ～ 8月30日（日）
第58回	新収蔵資料 新しい時代のいぶき～井上裕章撮影カラー写真にみる～	平成27年9月 1日（火） ～11月 1日（日）
第59回	子どもと読書	平成27年11月 3日（火） ～平成28年1月24日（日）
第60回	九段界隈の移り変わり	平成28年1月26日（火） ～ 5月 8日（日）

注：回数は平成19年度開始以来の通算回数

昭和館入場者状況の推移(平成11年度～27年度)

	常設展示室							映像・音響室	図書室	特別企画展	ニュースコーナー	総計
	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐるっパス	無料	合計						
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	-	90,836	35,236	19,398	31,142	-	176,612	
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	2,914	55,530	27,661	16,370	24,112	-	123,673	
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	3,610	62,575	38,866	20,616	33,903	65,124	221,084	
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	4,016	56,946	39,286	20,622	26,204	112,402	255,460	
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	5,235	59,475	34,328	19,072	28,953	115,594	257,422	
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	5,592	65,756	33,046	19,573	26,920	112,164	257,459	
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	6,265	68,651	35,416	19,449	35,611	124,259	283,386	
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	6,363	63,193	29,225	18,465	35,848	125,484	272,215	
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	7,605	65,580	32,683	17,617	66,280	133,564	315,724	
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	6,082	64,643	32,101	17,270	45,719	119,418	279,151	
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	6,059	60,744	29,787	19,898	40,627	115,523	266,579	
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	5,194	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092	
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	4,868	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319	
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	5,206	53,271	33,092	20,984	83,568	99,329	290,244	
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	6,284	56,977	32,653	22,013	68,427	126,225	306,295	
平成26年度	20,367	3,225	33,335	1,884	8,524	67,335	37,692	22,523	104,753	138,008	370,311	
平成27年度	28,362	3,689	34,660	2,559	7,667	76,937	37,252	20,499	163,928	226,440	525,056	
合計	508,921	49,552	415,819	14,198	91,484	1,079,974	565,122	332,510	924,711	1,807,765	4,710,082	

2 平成27年度利用者実績

(単位：人)

	常設展示室	映像・音響室	図書室	ニュースシアター	特別企画展等	合計	特別企画展等内訳
平成27年 4月	2,911	1,863	1,299	19,668	29,133	54,874	4/1 (3/21~4/19) 写真展期間 4/1 (3/21~) 特別企画展期間 4/25~ 戦後70年写真展 第1期
5月	5,080	3,040	1,367	19,403	13,317	42,207	~5/10 特別企画展期間 5/24 紙芝居定期上演会
6月	4,174	2,705	1,434	13,999	7,894	30,206	
7月	4,737	2,543	1,653	16,206	12,101	37,240	~7/12 戦後70年写真展 第1期 7/18~ 戦後70年写真展 第2期 7/18~ 3館スタンプラリー 7/25~ 特別企画展期間 7/26 紙芝居定期上演会
8月	12,957	5,889	4,012	51,729	44,879	119,466	8/14~8/24 戦後70年3館合同企画展示会 (日比谷図書文化会館) ~8/30 3館スタンプラリー ~8/30 特別企画展期間
9月	4,816	2,351	1,323	15,174	8,627	32,291	9/27 紙芝居定期上演会
10月	4,542	2,265	1,198	14,216	13,793	36,014	~10/4 戦後70年写真展 第2期 10/10~ 戦後70年写真展 第3期 10/17~10/27 長野県巡回特別企画展期間 10/31~ 和歌山県巡回特別企画展期間
11月	8,619	3,831	1,871	20,114	14,392	48,827	~11/8 和歌山県巡回特別企画展期間 11/22 紙芝居定期上演会
12月	11,406	4,934	2,292	21,745	6,248	46,625	~12/20 戦後70年写真展 第3期
平成28年 1月	7,274	2,965	1,893	10,735	85	22,952	1/24 紙芝居定期上演会
2月	7,331	3,311	1,526	10,578	0	22,746	
3月	3,090	1,555	631	12,873	13,459	31,608	3/19~3/31 (4/17) 写真展期間 3/19~3/31 (5/8) 特別企画展期間 3/27 紙芝居定期上演会
合計	76,937	37,252	20,499	226,440	163,928	525,056	

3 常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合 (%)
76,937人	有料 34,610人	高・大学生	3,689人	4.8
		一般	30,921人	40.1
	無料 42,327人	小・中学生	34,660人	45.0
		視察者等	5,689人	7.4
		心身障害者	1,542人	2.0
		未就学児	436人	0.57

(参考) 団体による来館学校数

総数	区分	学校数	割合 (%)
652校	小学校	358校	55.0
	中学校	209校	32.0
	高校	42校	6.4
	専門学校	5校	0.7
	大学	38校	5.8

4 来館団体御芳名

(敬称略)

月 日	団 体 名	人 数
4月 8日	北茨城市連合遺族会	96名
5月 12日	江戸川区立西一之江小学校6年生	130名
"	苫小牧市立明倫中学校3年生	129名
5月 22日	平塚市立大住中学校2年生	128名
"	千葉県立四街道北高等学校2年生	159名
5月 24日	神戸市立湊翔南中学校3年生	173名
5月 28日	横浜市立森中学校2年生	167名
"	横浜市立もえぎ野中学校2年生	195名
5月 30日	緑法人会	104名
6月 3日	橋本市立紀見東中学校3年生	122名
6月 4日	海老名市立柏ヶ谷中学校2年生	101名
6月 5日	共立女子高等学校1年生	203名
6月 17日	相模原市立大野南中学校2年生	270名
"	平塚市立金目中学校2年生	119名
8月 15日	京都府全国戦没者追悼式参列遺族団	156名
8月 27日	川崎市立宮前平中学校2年生	200名
9月 3日	南陽市立沖郷中学校3年生	96名
9月 8日	長井市立長井南中学校2年生	119名
9月 9日	鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校6年生	186名
9月 10日	流山市立西初石小学校6年生	104名
10月 8日	取手市立取手小学校6年生	106名
10月 20日	北海道白老東高等学校2年生	119名
10月 21日	新潟市立新津第五中学校2年生	99名
10月 28日	入間市立東町小学校6年生	103名
11月 5日	世田谷区立桜丘中学校2年生	125名
"	八王子市立みなみ野君田小学校6年生	118名
11月 6日	小平市立小平第七小学校6年生	124名
"	伊奈町立小室小学校6年生	127名
11月 12日	江東区立明治小学校6年生	153名
"	小山市立大谷北小学校6年生	145名
"	三浦組仏教婦人会	101名
11月 13日	江東区立豊洲北小学校6年生	233名
11月 17日	江戸川区立東葛西小学校6年生	124名
"	小山市立羽川小学校6年生	98名
"	熊谷市立熊谷西小学校6年生	114名
11月 19日	松戸市立常盤平第二小学校6年生	100名
11月 20日	富士市立岩松北小学校6年生	128名
"	桐蔭学園小学部6年生	152名
11月 26日	大田区立大森第四小学校6年生	102名
"	江戸川区立第五葛西小学校6年生	95名
"	川崎市立下平間小学校6年生	95名
11月 27日	杉並区立和田小学校6年生	95名
"	練馬区立開進第四小学校6年生	95名
"	小平市立小平第十三小学校6年生	98名
12月 1日	府中市立白糸台小学校6年生	106名
12月 3日	荒川区立汐入東小学校6年生	103名
"	足立区立東伊興小学校6年生	115名
"	船橋市立大穴北小学校6年生	110名
12月 4日	中央区立佃中学校2年生	95名
"	江戸川区立鎌田小学校6年生	105名
"	千葉県立有吉小学校6年生	107名
12月 8日	昭島市立拝島第三小学校6年生	106名
"	杉並区立香掛小学校6年生	100名
"	江戸川区立第三松江小学校6年生	100名
"	板橋区立成増小学校6年生	98名
12月 9日	清瀬市立清瀬小学校6年生	95名
"	八潮市立大瀬小学校6年生	95名
12月 10日	江東区立数矢小学校6年生	102名
"	品川区立第二延山小学校6年生	113名

月 日	団 体 名	人 数
12月 11日	葛飾区立柴又小学校6年生	107名
"	千葉県立検見川小学校6年生	99名
12月 15日	江戸川区立南葛西小学校6年生	123名
"	練馬区立中村小学校6年生	138名
12月 15日	江戸川区立篠崎第四小学校6年生	104名
12月 16日	守谷市立松ヶ丘小学校6年生	107名
12月 17日	板橋区立金沢小学校6年生	108名
"	港区立白金小学校6年生	107名
"	江東区立枝川小学校6年生	106名
12月 17日	横浜市立日吉台中学校2年生	317名
12月 18日	墨田区立二葉小学校6年生	101名
"	船橋市立葛飾小学校6年生	253名
12月 22日	武蔵野市立大野田小学校6年生	116名
"	横浜市立勝田小学校6年生	108名
"	品川区立第三日野小学校6年生	99名
12月 24日	目黒区立中目黒小学校6年生	95名
"	北区立王子小学校6年生	101名
"	横浜市立川上北小学校6年生	164名
12月 25日	練馬区立大泉南小学校6年生	125名
"	足立区立綾瀬小学校6年生	134名
1月 13日	カリタス小学校6年生	115名
"	佐川町立佐川中学校2年生	101名
1月 14日	武蔵村山市立第四小学校6年生	98名
"	川崎市立宿原小学校6年生	118名
"	横浜市立瀬谷小学校6年生	129名
1月 15日	品川区立城南第二小学校6年生	98名
"	東久留米市立第二小学校6年生	96名
"	足立区立鹿浜第一小学校6年生	117名
"	袖ヶ浦市立長浦小学校6年生	113名
"	小田原市立国府津小学校6年生	104名
1月 19日	横浜市立東汲小学校6年生	98名
"	西東京市立向台小学校6年生	127名
1月 20日	八潮市立大原小学校6年生	117名
1月 21日	葛飾区立半田小学校6年生	115名
1月 22日	東久留米市立第九小学校6年生	106名
1月 26日	渋谷区立西原小学校6年生	95名
"	府中市立府中第八小学校6年生	158名
"	江戸川区立第二葛西小学校6年生	149名
"	富士見市立みずほ台小学校6年生	107名
1月 27日	酒々井町立酒々井小学校6年生	104名
"	千葉県立海浜打瀬小学校6年生	127名
1月 28日	鎌ヶ谷市立第三中学校1年生	151名
1月 29日	大和市立渋谷小学校6年生	104名
"	鎌ヶ谷市立西部小学校6年生	102名
"	府中市立府中第六中学校2年生	143名
2月 5日	桶川市立桶川東小学校6年生	112名
"	桶川市立桶川小学校6年生	137名
"	浦安市立南小学校6年生	171名
2月 9日	江東区立第二砂町小学校6年生	116名
2月 10日	横浜市立末吉小学校6年生	145名
2月 12日	江戸川区立小松川第二小学校6年生	112名
"	横浜市立秋葉小学校6年生	105名
"	横浜市立田奈小学校6年生	114名
"	板橋区立赤塚第二中学校2年生	189名
2月 18日	市川市立市川小学校6年生	97名
2月 19日	東京学芸大学附属世田谷小学校6年生	119名
2月 23日	西東京市立中原小学校6年生	172名
2月 24日	横浜市立洋光台第一小学校6年生	116名
2月 26日	千葉日本大学第一小学校6年生	108名

※紙面の都合により、95名以上で来館した団体のみを掲載しております。

5 第14回昭和館見学作文コンクール・厚生労働大臣賞受賞作品

戦後70年 ～昭和館を見学して～

国立市立国立第五小学校 6年 三田 ひとみ

私は今回、戦争について調べるまで「戦争では多くの人が亡くなった」たったそれだけしか知らなかった。今までの自分は戦争にほとんど興味が無かったのだと思う。

そこで戦後70年という事もあり、今回、昭和館に初めて訪れた。昭和館は1階から7階まであり、各階で色々な体験や見学をすることができた。常設展示室では、体験や見学を通して戦時中、戦後の様子について詳しく知ることができた。その中でも空襲について興味を持った。1番の理由は防空壕のこと。昭和館にある防空壕の体験をした時、防空壕には外の音も防ぐはたらきがあると思っていたが、爆音が響いたことに驚き、防空壕内でも決して安心して過ごす事ができないと感じた。

別の階の図書室では、色々な本を使って4枚のワークシートに挑戦した。中でも学校生活については、心身をしっかりきたえ、より強い日本の国をつくる人間になるために、戦時中の学校で団体訓練や武道の授業が重視されたなど、大人たちによって子どもまでが戦争に協力させられたことを知った。

また、昭和館で手にした資料の中で戦後70年企画として、「私たちが伝える体験談の言葉」のスペシャルイベントが行われることを知り、8月8日平和祈念展示資料館の語り部お話会に参加した。抑留体験者、猪熊徳郎さんのお話の中で最も心に残った話は、「戦友達と励ましあって生きてきたというならば自分は生きて帰れない。」ということ。自分のこと以外は何も考えずに、ひたすら自分の事だけを考えて生きていく、それしか生きるための手段はないのだと思った。

私は、その話を聞いた時に、戦争とは人間の素直な気持ちも消してしまうくらい怖く、恐ろしいものだということを実感した。

しかし、年々語り部が少なくなり、戦争に興味を持つ人たちも減ってきている。そのため、この機会に戦争について調べた私は、思い出したくない現実を話してくれた方々に感謝しながら、戦争の話を語り継ぎ、日本国民のほとんどが体験した不安で恐怖の生活を決して忘れてはいけないと思った。

戦争の経験がない私たちにとって、どんなに見聞きしても戦争の怖さを百パーセント理解することはできない。それでも私が今回調べた事、体験した事を現代社会につなげる事で役に立てたいと思う。

6 第8回昭和館高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介 <入賞作品（優秀賞以上）>



最優秀賞
岐阜県立岐阜総合学園高等学校
近藤 寛子
昭和の風景



優秀賞
法政大学女子高等学校
徳野 英
昭和の子どもたち



優秀賞
兵庫県立明石高等学校
北郷 七緒
昭和の子どもの遊び



優秀賞
富山第一高等学校
岡本 彩芽
昭和の生活



優秀賞
富山第一高等学校
田中 亨奈
戦中・戦後の変遷



優秀賞
宮崎県立佐土原高等学校
稲垣 亜美香
戦後の景色



優秀賞
宮崎県立佐土原高等学校
重松 里奈
昭和の代表的風景



優秀賞
福岡県立折尾高等学校
泉 葉子
昭和の生活

7 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもと、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。

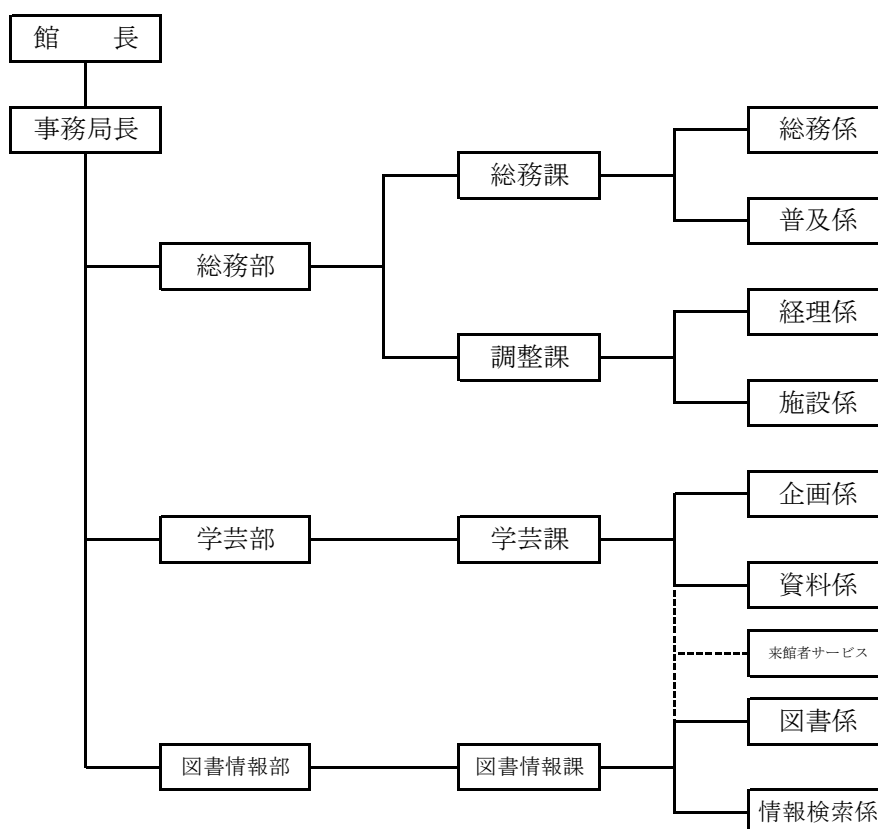
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施 設

面 積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備 考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組 織



8 平成27年度寄贈者御芳名

本年度に、資料をご寄贈くださいました方のお名前を記して御礼といたします。

実物資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
神奈川県	大和花の画房 高見清三郎

実物資料寄贈者

[個人]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
福島県	佐藤 満
埼玉県	石井 正恵
〃	大貫 不二子
〃	今野 修子
〃	佐藤 永子
〃	篠崎 正彦
〃	本多 和子
千葉県	大杉 由美子
〃	門脇 頼枝
〃	鎌田 景子
〃	榊原 妙子
〃	山本 卓子
東京都	青山 ちよ
〃	安室 俊
〃	安齋 正則
〃	池川 陽子
〃	伊藤 靖子
〃	稲見 嘉英
〃	大賀 佐怡子
〃	大谷 啓二
〃	大西 美鈴
〃	片岡 禮子
〃	北原 徳子
〃	郡司 正次
〃	小國 喜代子
〃	近藤 英子
〃	魚谷 忠志
〃	佐久間 豊
〃	桜井 千代子
〃	佐藤 安彦
〃	島本 京子
〃	関口 みどり
〃	関根 晃一
〃	高城 淳子
〃	高澤 八重子
〃	高橋 篤子

都道府県	寄贈者名
東京都	田村 能保留
〃	田中 俊文
〃	中山 芳美
〃	中里 左知子
〃	西堀 明男
〃	檜山 紀雄
〃	松木 こずえ
〃	水谷 隆雄
〃	宮下 花子
〃	村上 佳代
〃	百瀬 滋子
〃	山崎 浩子
〃	横田 浩一
〃	吉川 隆文
神奈川県	安斉 美知子
〃	工藤 貞子
〃	齋藤 百子
〃	座間 初恵
〃	菅 信三郎
〃	滝口 亨
〃	手塚 幸子
〃	吉田 秀苗
静岡県	斉藤 浩文
〃	松本 早苗
長野県	内海 みよ
愛知県	青木 健治
〃	精園 喜昭
〃	辻井 賢一
和歌山県	平井 千賀子
〃	船野 眞利子
京都府	山崎 貞子
大阪府	大林 満子
〃	山本 正勝
福岡県	片山 富美恵
佐賀県	川浪 元
長崎県	楠本 武

図書資料寄贈者

[団体]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
北海道	アイヌ文化振興・研究推進機構
〃	釧路市立博物館
〃	北海道歴史文化財団
青森県	青森県立郷土館
〃	青森県近代文学館
〃	八戸市博物館
岩手県	岩手県立博物館
〃	盛岡市先人記念館
秋田県	秋田県立博物館
〃	日本ラジオ歌謡研究会
宮城県	東北歴史博物館
〃	仙台市歴史民俗資料館
山形県	米沢市上杉博物館
福島県	福島県歴史資料館
茨城県	茨城県立歴史館
埼玉県	川越市立博物館
〃	埼玉県平和資料館
〃	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会
〃	日本大学広報部大学史編纂課
〃	蕨市立歴史民俗資料館
〃	埼玉県立歴史と民俗の博物館
〃	中国帰国者定着促進センター
〃	所沢市生涯学習推進センター
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館
〃	国立歴史民俗博物館
〃	城西国際大学水田美術館
〃	女性の日記から学ぶ会
〃	市立市川歴史博物館
〃	野田市郷土博物館
〃	船橋市郷土資料館
〃	松戸市教育委員会
東京都	JCIIフォトサロン
〃	NHK放送博物館
〃	足立区立郷土博物館
〃	板橋区立郷土資料館
〃	家具の博物館
〃	古賀政男音楽文化振興財団古賀政男音楽博物館
〃	出光美術館
〃	海原会
〃	お札と切手の博物館
〃	偕行社
〃	株式会社文藝春秋
〃	株式会社吉川弘文館
〃	北区飛鳥山博物館
〃	北区教育委員会生涯学習推進課
〃	北区総務部
〃	宮内庁書陵部
〃	國學院大學研究開発推進機構学術資料館神道資料館部門
〃	国土館 国土館百年史編纂委員会
〃	くにたち郷土文化館
〃	国立公文書館
〃	衆議院憲政記念館
〃	しょうけい館

都道府県	寄贈者名
東京都	昭和女子大学光葉博物館
〃	新葉館出版
〃	水交会
〃	杉並区立郷土博物館
〃	杉並区立郷土博物館分館
〃	すみだ郷土文化資料館
〃	政治経済研究所東京大空襲・戦災資料センター
〃	世田谷区立郷土資料館
〃	世田谷美術館
〃	せたがや文化財団
〃	全国疎開学童連絡協議会
〃	学童疎開資料センター
〃	台東区教育委員会
〃	たばこと塩の博物館
〃	玉川大学教育博物館
〃	多摩市文化振興財団 パルテノン多摩
〃	中国残留孤児援護基金
〃	調布市郷土博物館
〃	千代田区教育委員会
〃	千代田区立千代田図書館
〃	千代田区立日比谷図書文化館
〃	通信文化協会
〃	東京家政学院生活文化博物館
〃	東京都公文書館
〃	東京都三多摩公立博物館協議会
〃	東京都写真美術館
〃	東京都博物館協議会
〃	東京都人権啓発センター
〃	東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〃	道具学会事務局
〃	豊島区雑司が谷旧宣教師館
〃	豊島区立郷土資料館
〃	中野区立歴史民俗資料館
〃	日本カメラ博物館
〃	日本郷友連盟
〃	日本ユネスコ協会連盟 世界遺産・国際教育グループ
〃	練馬区立石神井公園ふるさと文化館
〃	八王子市郷土資料館
〃	八王子市市史編さん室
〃	東大和市役所企画財政部秘書広報課
〃	文京ふるさと歴史館
〃	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室
〃	法政大学史センター
〃	町田市立自由民権資料館
〃	町田市立博物館
〃	満鉄会
〃	三鷹市山本有三記念館
〃	港区赤坂地区総合支所協働推進課
〃	港区立港郷土資料館
〃	民音音楽博物館(民主音楽協会)
〃	武蔵野市役所 市民部 市民活動推進課 市民相談係
〃	明治大学史資料センター
〃	明治大学博物館

都道府県	寄贈者名
東京都	目黒区めぐろ歴史資料館
〃	野球殿堂博物館
〃	靖國神社社務所
〃	有限会社 スタジオ・ポストエイジ
〃	吉田秀雄記念事業財団
〃	早稲田大学會津八一記念博物館
神奈川県	JICA海外移住資料館
〃	大磯町郷土資料館
〃	神奈川近代文学館
〃	神奈川県立歴史博物館
〃	川崎市市民ミュージアム
〃	馬事文化財団 馬の博物館
〃	女子美術大学美術館
〃	平塚市博物館
〃	放送番組センター(放送ライブラリー)
〃	帆船日本丸記念財団 横浜マリタイムミュージアム
〃	大和花の画房 高見清三郎
〃	横須賀市総務部総務課
〃	横浜みなと博物館
〃	横浜市史資料室
〃	横浜開港資料館
〃	横浜都市発展記念館
新潟県	新潟市歴史博物館
富山県	富山市郷土博物館
〃	富山市民俗民芸村
石川県	石川県立美術館
〃	石川県立歴史博物館
福井県	福井県立歴史博物館
山梨県	春日居郷土館
〃	山梨県遺族会
長野県	飯田市美術館
〃	旧制高等学校記念館
〃	中川村教育委員会
〃	長野県ニューギニア会
〃	長野県立歴史館
〃	松本市立博物館
静岡県	島田市教育委員会
〃	島田市博物館
〃	沼津市歴史民俗資料館
〃	浜松市博物館
愛知県	安城市歴史博物館
〃	岡崎市美術館
〃	戦争と平和の資料館ピースあいち
〃	名古屋市博物館
〃	半田市総務部 総務課
三重県	三重県総合博物館
〃	四日市市立博物館
滋賀県	滋賀県平和祈念館
京都府	京都国立博物館
〃	京都市学校歴史博物館
〃	立命館大学国際平和ミュージアム

都道府県	寄贈者名
大阪府	往生院民具供養館
〃	大阪歴史博物館
〃	堺市立平和と人権資料館(フェニックス・ミュージアム)
兵庫県	明石市立文化博物館
〃	赤穂市立歴史博物館
〃	たつの市立埋蔵文化財センター
和歌山県	和歌山県立博物館
〃	和歌山県立紀伊風土記の丘
岡山県	津山郷土博物館
広島県	呉市海事歴史科学館
〃	(呉市)文化スポーツ部文化振興課 市史編さんグループ
〃	広島大学 教育・国際室 交際交流グループ
〃	広島県立歴史博物館
〃	広島平和文化センター
山口県	下関市立考古博物館
〃	周南市美術博物館
香川県	高松市役所 人権啓発課 平和記念係
愛媛県	愛媛県歴史文化博物館
〃	坂の上の雲ミュージアム
高知県	土佐山内家宝資料館
福岡県	北九州市立自然史・歴史博物館
佐賀県	有田町歴史民俗資料館
長崎県	長崎県文化観光物産局文化振興課
〃	長崎歴史文化博物館
熊本県	天草キリシタン館
大分県	大分市歴史資料館
宮崎県	みやざき歴史文化館
鹿児島県	鹿児島県歴史資料センター 黎明館
〃	南九州市教育委員会 文化財課(ミュージアム知覧)
沖縄県	沖縄県文化振興会 公文書管理課
〃	沖縄県平和祈念資料館
〃	ひめゆり平和祈念資料館

図書資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
北海道	出光英哉
〃	小山武夫
〃	藤崎妙子
青森県	飛内進
茨城県	吉久保満男
埼玉県	菊地正浩
〃	鯨井邦彦
〃	佐藤永子
〃	中林利重
〃	正林信子
千葉県	門脇頼枝
〃	鎌田景子
〃	柳靖子
東京都	飯島哲夫
〃	池川陽子
〃	伊藤靖子
〃	奥山義夫
〃	梶原真悟
〃	川田洋子
〃	木村健
〃	小泉皖司
〃	小泉靖子
〃	近藤英子
〃	阪上順夫

都道府県	寄贈者名
東京都	櫻井隆
〃	桜井千代子
〃	佐藤あけみ
〃	鈴木剛
〃	高澤八重子
〃	田村能保留
〃	土谷孝子
〃	中山芳美
〃	中山正子
〃	林田廣伸
〃	春成幸男
〃	檜山紀雄
〃	藤井孝信
〃	藤澤秀夫
〃	星野光世
〃	前沢正己
〃	安和子
〃	安場淳
〃	山崎浩子
〃	山添由紀子
〃	山本嘉子
神奈川県	井上弘
〃	小田義幸
〃	亀尾覺

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
神奈川県	齋藤百子
〃	常田直樹
〃	中村光夫
〃	平山一美
〃	吉原丈司
新潟県	原田健一
長野県	大石文彦
〃	岡野和興
〃	坂口浩
〃	竹村淳
愛知県	青木健治
〃	恒川利雄
〃	牧野笑子
〃	松浦正明
大阪府	土居安子
〃	福山琢磨
兵庫県	白石真理
和歌山県	船野眞利子
鳥取県	細田京香
〃	森徹士
島根県	若杉愛
山口県	青木岩夫
佐賀県	川浪元
アメリカ	LEE PENNINGTON

映像・音響資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
埼玉県	石井正恵
千葉県	鎌田景子
東京都	山崎浩子
〃	高澤八重子
〃	井上明

都道府県	寄贈者名
東京都	森下昌毅
〃	鈴木善晴
〃	鳥取二三子
〃	松木こずえ
〃	西堀明男

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
神奈川県	滝口亨
〃	畠山道江
愛知県	辻井賢一
宮崎県	籠原洋子

昭和館館報 第17号 (平成27年度)

平成28年7月発行

編集発行 昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話 03 (3222) 2577